

飛騨南部に通行規制・土砂流入を伴う激しい降雨！

◇平成30年4月25日(水)下呂市瀬戸の事前通行規制区間(通行止め基準:連続雨量150mm)で、**連続雨量161mm**、**時間10mm以上の降雨が連続7時間**続き、安全確保のため事前通行規制を行いました。
 ◇通行止め開始後、規制区間で**土砂流入**を確認しました。しかし、土砂の多くは道路上に広がることなく、**既設の土砂防護網**により受け止めることができました。

《土砂流入状況》



順次規制解除を行いました、区間で最大10時間半の通行規制を行いました。
 ご協力いただき、誠にありがとうございました。

事前通行規制区間とは・・・

大雨や台風による土砂崩れや落石等の恐れがある箇所について、過去の記録などを元にそれぞれ規制の基準等を定め、**災害が発生する前**に「通行止」などの規制を実施し、道路を利用する皆様の安全を確保します。

連続雨量:
 降り始めからの降雨量の累積。ただし、道路管理では、原則として時間雨量2mm以下の小雨が3時間続いた場合は0mmにリセット。

換算連続雨量:
 降った雨が土中にしみ込んだり、川等へ流れ出す現象に近い計算式を用い、降り始めからの累積雨量から増減を行ったもの。

— 国道41号 通行規制区間



よしがはら
吉ヶ原 規制区間 (延長11.8km)
 飛騨市神岡町船津～同町東茂住
 通行止め基準: **連続雨量120mm**

なぎさ
渚 規制区間 (延長8.0km)
 高山市久々野町渚～同町久々野町無数河
 通行止め基準: **連続雨量150mm**

ひがしうだ
東上田 規制区間 (延長2.6km)
 下呂市東上田字栃洞～字小砂場
 通行止め基準: **連続雨量240mm**
 局地化・集中化する降雨を考慮

せと
瀬戸 規制区間 (延長17.9km)
 下呂市金山町中切～同市金山町三原
 通行止め基準: **連続雨量150mm**
 換算連続雨量100mm

道路情報の取得は「**ひだ道ガイド**」をご利用下さい。

降雨量の予測や通行止め情報などが携帯電話やパソコンから簡単に確認することができますので是非ご利用ください。

＜パソコン＞ <http://www.cbr.mlit.go.jp/takayama/hidamichi/>

＜スマートフォン・携帯電話＞ <http://www.cbr.mlit.go.jp/takayama/hidamichi/mobile/>



お願い 道路の異状を発見したら・・・

道路緊急ダイヤル #9910
 (24時間受付・通話料無料)

道路利用者の皆様・地域の皆様にはご不便をおかけいたしますが、
 ご理解とご協力をお願いいたします。

道路情報の発信力強化！！ 春の高山祭りに関する交通情報を放送しました！

○道路情報の発信力強化○

春の高山祭りに関する交通情報等を、『通行規制等における道路情報提供に関する協定』により、岐阜県内コミュニティFMラジオ放送局（Hits FM・FM-PiPi・FMわっち・FMらら）をとおして発信しました！
今後も、工事に伴う通行規制情報や災害時の通行止情報等、利用者の皆様へ特にお伝えしたい情報を広範囲に発信します。

↓↓ 協定を結んで初の放送です！



○通行規制等における道路情報提供に関する協定とは○

岐阜国道事務所、多治見砂防国道事務所及び高山国道事務所では、岐阜県内コミュニティFMラジオ放送局連絡協議会と連携し、工事等に伴う通行規制情報及び災害時の通行止め情報を中心とした道路情報を迅速且つ広範囲に提供することにより、道路利用者が安全・安心に道路利用していただくことを目的として、1月31日、「通行規制等における道路情報提供に関する協定」を岐阜県内コミュニティFMラジオ放送局連絡協議会との間で締結しました。

○岐阜県内コミュニティFMラジオ連絡協議会とは・・・

株式会社シティエフエムぎふ、
FMラインウェーブ株式会社、
株式会社エフエムたじみ、
株式会社飛騨高山テレ・エフエムの4社で構成している協議会のことです。



第4回目の今回は、北村高山商工会議所会頭及び亀谷神岡商工会議所会頭のお2人にインタビューを行いました。最初は北村高山商工会議所会頭です。

「時代の変化への対応、世界基準への対応が重要」

- ・時代の変化を強く感じている。
- ・自分の若い頃から考えると、ネットでの買い物がこれほど普及する等想像もしていなかったし、外国人観光客が関空のある泉佐野ナンバーのレンタカーを使って飛騨まで来ている世界も想像できなかった。
また、岐阜市での会議に参加する際、一日仕事だったものが、今では東海北陸道、中部縦貫のおかげで半日で仕事を終えて飛騨に戻ってこられる様になった。
- ・このような「時代の変化」に対応していくことが重要。
更にその際、変化しつつも昔からある良いものを残しつつ変革していくことが必要である。それは、私の生業である家具の世界もそうであるし、高山のまちなみや文化などもそうである。
- ・家具の世界であれば、時代に合わせて、高度経済成長期の大量生産から、お客様のニーズに合わせて少量ながらも多品種を生産していくことへと舵を切ってきた。その際も、昔から使っている家具製造の機械を大事にメンテナンスしながら使い続けており、そのことが飛騨の家具の特徴となって表れている。このように、古いものの良さを活かしつつ、飛騨の家具をブランド化してきたことが重要だったと考えている。
- ・更に、世界中の方が日本の商品を、日本人が外国のものをネット上購入し、世界中の方が訪問し交流している時代の中で、「世界基準、世界のスタンダード」を意識しながら取り組んでいくことが重要である。
- ・例えば、観光面ではホテルのサービス、料理、客室のレベル、駅やまちなみの景観等を世界の方々から見て十分な水準にしていくことが必要。今の状況では、私見としてはまちの景観など海外の水準には追いついていないと思っている。
- ・道路、交通についても、世界水準から見て十分ではないと思うところはある。道路標識などもっと海外の人から見てわかりやすくしていくことが必要であるし、道路が狭く非常に危ないところも多く、もっと安全にしていくことが必要である。
- ・鉄道のサービス水準は定時性などの面で世界最高水準だと思う一方で、道路交通については渋滞などで定時性が確保できていないことも含め、まだまだ世界水準には達していない。
- ・飛騨の将来に向けて、このような時代の変化への対応、世界基準を意識した取り組みを着実に進めていくことが重要である。



北村 斉
高山商工会議所会頭

今年も5月15日に乗鞍スカイラインがオープンしました！各峰への登山、山野草の散策など、四季を通じてすばらしい景観を楽しめます。ぜひ、足を運んでみて下さい。

続いて、亀谷神岡商工会議所会頭です。

「国道41号を軸とした富山とのつながりの強化がこれからの鍵」

- ・ 飛騨市神岡における課題は、やはり人口減少。
- ・ 地域創生等の発言はあるが、現実的には人口規模等から山間地域の切り捨てとなっていけないか心配している。そのような中、地域の生活の保持の上では、交流人口について着目している。
- ・ 神岡は、飛騨地域の中で観光の面では後発組であるが、レールマウンテンバイクを始め様々な資源を持っており、可能性は秘めていると思っている
- ・ その上で、北陸新幹線との関係も含め、富山とのつながりが重要だと考えている。関東圏からの人の流れが北陸新幹線の完成によりできてきており、如何に神岡方面に人の流れを持ってくるかが重要な課題。
- ・ 北陸新幹線からの移動には路線バスやレンタカーを使って、神岡に来ている方が多く、外国人観光客も例外ではない。今後、新幹線の2次交通としての道路交通の充実が交流人口増大にあたり重要と考えている。
- ・ また人口減少は、企業の人材確保の面でも大きな課題である。
- ・ これまでの神岡地区の強みとして、富山方面と比較して安い人件費と神岡鉱山勤めの家族である主婦を雇用対象として確保しやすかったことがあるが、人口減少等にもないこれらの強みがなくなってきた。
- ・ 企業の労働力確保できなければ、企業の海外シフトが進むことにもつながる。
- ・ その点で、より人口の多い富山方面へ通勤圏が広がることに期待している。事実、41号の高山国府バイパスのトンネル整備に対しては、時間短縮による通勤圏の拡大等の実感している声が多いと認識している。
- ・ 観光や産業の観点から、富山との結びつきをより強固にしていく必要があると考えており、その結びつきを強める唯一の手段が国道41号である。
- ・ このため国道41号の雨や雪等の悪条件時の安全性の確保、通行止めなどが生じない信頼性の確保、そして老朽化した施設が増えてくる中での着実な維持管理等は神岡地区の命綱である。
- ・ また、視点を変えると、神岡には、世界的な研究施設であるスーパーカミオカンデ、本格運用を待つKAGRAがある。
- ・ これらの施設は、当該分野で世界最先端であり、世界的権威のある研究者が集結する中で、これらの施設へのアクセスを担う国道41号の安全・安心の確保は、そういった観点からも非常に重要である。



亀谷 豊
神岡商工会議所会頭

レールマウンテンバイク“ガッタンゴー”は今年から新コース「溪谷コース」を開業しました！



ホームページアドレス → <https://rail-mtb.com/>

飛騨高山高校の1, 3年生生徒による水生昆虫・樹木の調査 ～高山西ICビオトープ“飛騨の森再生”における今年第1回目の環境学習～



今年で14年目を迎えました

飛騨高山高校環境科学科3年生35名が平成30年5月16日(水)に、1年生34名が5月21日(月)に、高山西インターチェンジ内に設けたビオトープ“飛騨の森再生”において、春の環境学習を行いました。ビオトープでは、春に見られる水生昆虫(トンボのヤゴ等)の捕獲・識別実習と樹木の生育状況調査実習を行いました。

水生昆虫の捕獲・識別実習ではトンボのヤゴなどの水生昆虫に加えてドジョウといった生物も見られ、また春に羽化するエゾイトトンボ、シオヤトンボといったトンボの仲間の飛翔を確認し、これらの生物の特徴や生息環境について学習を行いました。

1年生は、ビオトープについての説明を受けるとともに、水生昆虫の捕獲・識別学習を行いました。



【ビオトープについて説明を聞く1年生】



【水生昆虫(トンボのヤゴ等)の捕獲】



【捕獲した水生昆虫(トンボのヤゴ)のスケッチ】



【確認したエゾイトトンボ】

樹木の生育状況調査実習では樹木の高さの測定や枝の広がり具合を調査、また葉の形をスケッチすることで、樹木の特徴を学習するとともに、植樹した樹木の成長具合を確認しました。



【樹木の生育状況調査】

同校と高山国道事務所が平成22年に締結した「ビオトープの維持管理に関する協定」に基づき定期的に実施しているもので、環境学習を行うことで、自然環境調査に必要な基礎的な知識と技術の習得および飛騨の自然環境の習得について理解を深めています。また、これまでの同校との協働による継続的な維持管理活動により、貴重な植物が増殖又は再確認されるなど、様々な動植物の生息・生育環境が改善又は維持されています。

飛騨高山高校の3年生生徒によるギフチョウの保全対策 ～高山清見道路にてモニタリング調査を行いました～

中部縦貫自動車道高山清見道路4工区(高山IC～丹生川IC【仮称】)建設予定地内には、絶滅のおそれのある重要な種が確認されており、高山国道事務所では、これらの重要な種に配慮するため、移植など様々な保全対策を進めております。

平成26年度、道路建設予定地内で確認された重要な種であるギフチョウの卵がついたヒメカンアオイ(ギフチョウの食草)を、飛騨高山高校と高山国道事務所が協働して移植作業を行いました。

以後、毎年移植後のモニタリング調査を実施しており、今年度も5月18日(金)に「飛騨生態調査研究室」代表の大森清孝先生と「ギフチョウの翔ぶ里山の自然を考える会」会長の鈴木俊文先生を講師としてお招きして、飛騨高山高校環境科学科3年生6名が、保全対策として森林内に移植したヒメカンアオイの生育状況とギフチョウの産卵状況の調査を行いました。



【ギフチョウの生態について説明する鈴木俊文先生(中央奥)】



【ギフチョウの産卵状況調査】



【産卵を確認したヒメカンアオイの株へ付けた目印】

生徒たちは、講師の方々にギフチョウとヒメカンアオイの生態について教わりながら調査を実施し、ヒメカンアオイの葉を1枚1枚慎重に裏返してギフチョウの産卵の有無を調査しました。移植地でヒメカンアオイを確認した結果、19卵塊206個の卵が確認されました。移植した株からも卵塊が確認され、移植から4年が経過した現在も保全対策の効果が継続して見られました。

また、工事の進捗により移植地の環境変化が心配されていましたが、以前よりも日光が差し込むようになった結果、ギフチョウにとってよい環境となったようで、元から自生しているヒメカンアオイにも産卵エリアが広がっていました。

ギフチョウの生息環境を維持するために、今後も飛騨高山高校と協働して保全対策を行っていきます。



【確認したギフチョウの卵塊】

●ギフチョウ

- ・環境省レッドリスト: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)
- ・岐阜県レッドリスト: 準絶滅危惧(岐阜県内で存続基盤が脆弱な種)

※「レッドリスト」とは、絶滅のおそれのある野生生物について記載したデータブックです。日本全国を対象としたものは環境省が、岐阜県内を対象としたものは岐阜県が作成・公表しています。



H24.4撮影



ギフチョウの食草
ヒメカンアオイ